６．２ 現況の構造性能評価

木造架構の性能評価

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">性能に関する項目</th><th rowspan="2">目標値</th><th rowspan="2">階</th><th colspan="2">現況の性能</th></tr>
<tr><th>東西方向</th><th>南北方向</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">偏心率</td><td rowspan="2">0.30 以下</td><td>二重</td><td>0.001</td><td>0.003</td></tr>
<tr><td>初重</td><td>0.043</td><td>0.001</td></tr>
<tr><td rowspan="7">大地震動時</td><td rowspan="5">層間変形角</td><td rowspan="2">平均</td><td rowspan="2">1/20 以下</td><td>二重</td><td>—</td><td>1 / 10</td></tr>
<tr><td>初重</td><td>—</td><td>1 / 192</td></tr>
<tr><td rowspan="3">最大</td><td rowspan="3">1/15 以下</td><td>小屋</td><td></td><td>1 / 18</td></tr>
<tr><td>二重</td><td>—</td><td>1 / 5</td></tr>
<tr><td>初重</td><td>—</td><td>1 / 200</td></tr>
<tr><td colspan="2">柱の耐力確認</td><td>終局耐力以下</td><td>初重</td><td>—</td><td>降伏しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">保有耐力（Q/WZ）</td><td>－</td><td></td><td>—</td><td>0.057</td></tr>
<tr><td rowspan="3">風中程度</td><td rowspan="2">層間変形角</td><td rowspan="2">平均</td><td rowspan="2">1/20 以下</td><td>二重</td><td>1 / 64</td><td>—</td></tr>
<tr><td>初重</td><td>1 / 130</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">柱の耐力確認</td><td>終局耐力以下</td><td>初重</td><td>降伏しない</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="3">風大規模</td><td rowspan="2">層間変形角</td><td rowspan="2">平均</td><td rowspan="2">1/20 以下</td><td>二重</td><td>1 / 29</td><td>—</td></tr>
<tr><td>初重</td><td>1 / 50</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">柱の耐力確認</td><td>終局耐力以下</td><td>初重</td><td>降伏しない</td><td>—</td></tr>
</table>

表中 — は応答値が無く、層間変形角・柱降伏状態共に算定できない旨を示す。

東西方向は大地震動時に応答値が無く、層間変形角・柱降伏状態共に算定できず目標値を満足しない。二重は南北方向と同程度の耐力であり、目標値を満足しない。初重の応答値を用いて、平屋として検討した場合、層間変形角は 1/10 であり目標値を満足しない。

風中程度・風大規模については、目標値を満足している。

南北方向は大地震動時において、二重の耐力が低いため目標値を満足していない。初重について、解析結果を見ると目標値を満たしているように見える。これは二重の耐力が低いことの影響により、初重の変形が出ていないだけである。初重の荷重変形関係が把握できなかったため、二重を弾性とした初重の解析を行った。結果、初重の応答値での層間変形角は、1/18 であり目標値を満足しない。

風中程度および風大規模については、それぞれ目標値を満足していない。

以上より、東西・南北方向とも初重・二重は目標値を満足していないため、大地震動時に倒壊の恐れがある。また、南北方向において中規模以上の強風時に倒壊の恐れがある。

建物直下の表層は、盛土層であり建物を支持する地耐力を有していない。